野戦高射砲第八六大隊第三中隊略歴

年月日	概況
昭三〇、二、三	北支豊台出発
〃 〃 〃	天津集結
〃 〃 二四	天津出発
〃 〃 〃	塘沽到着乗船
〃 〃 二五	塘沽出帆
〃 〃 元	他中隊上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

野戰高射砲第七四大隊部隊略歷

昭和二十一年四月一九日調製

部隊長　陸軍少佐　森中幸男

年月日	概況
昭九、三、二六	軍令陸甲第一三号に依り東京近衛野砲兵第一連隊補充隊に於いて編成に着手
三、三一	編成完結
四、二	第二中隊を第二方面軍の戰斗序列に加えしめらる
四、三〇	東京出發
五、九	門司港出港
五、一〇	南京下関に上陸
五、三	河南省宗漢線黄河橋梁警
	北支那方面軍の戰斗序列に加えられ第一二軍に配屬、更に高射砲第五連隊長の指揮下に入り黄河橋梁の防空に任ず
六、三	高射砲第一五聯隊長の指揮を脱し第一二軍直轄となり、前任務を続行す、以後数十回の防空戰斗を実施す

0741

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	欄	摘要
		主なる配属部隊左の如し
		戦車第一独立混成旅団第三中隊
		〃　　〃　　第五中隊
		野戦機関銃第八三中隊
		特設　〃　第四中隊
		高射砲第一五連隊照空小隊
		混成機関銃小隊八ヶ小隊
昭二〇、八、一五		終戦
一〇、二〇		鄭州地区に移駐
二、二〇		左の部隊を編入せしめらる
		戦車第一独立混成旅団第三、第五中隊
		高射砲第一五聯隊高射第三、第九中隊第二小隊
昭二一、四、二		帰還のため鄭州出発　七日　上海着
四、三		上海港出港
四、六		佐世保港着
四、二〇		復員式挙行
五、三		二日市に於て復員完結

0742

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

豐信才二九連隊部隊略歴

部隊長　陸軍中佐　片山幸市

年月日	概況
昭一九、二、八	編成完結の状況 軍令陸甲才一二号により豐信才二九連隊臨時編成下令、部隊長　片山中佐は二月十六日発令、編成担任部隊たる豐信才二連隊補充隊に於りて三月八日より編成開始
三、一四	編成完結せり 但、器材はその大部分を受領し、馬匹は駄馬のみを受領、砲馬は後支
昭一九、三、一四	後河北省豊台に於て大陸馬を受領す 行動の概要及びその日時 豐信才二連隊補充隊に於て編成完結
三、八	佐賀出発
三、二〇	門司出帆
三、二〇	河北省豊台到着
四、一	本部有線、大中隊無線及材料廠の主力、京漢作戦参加の為河北省新鄭

0743

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概況
	集結、大隊主力は日に至る間電信第一連隊より有線二ケ中隊、無線二ケ小隊及独立有線第一、第二、第三中隊、通一ケ小隊第五五、五六固定無線隊並びに華北電信電話株式会社従業員約三〇〇名より成る特設有線作業隊を指揮下に入れ京漢作戦に参加、河南地区に於て軍幹通信網構成並びに通信連絡に任ず。
昭九、四、一五	有線第五中隊目期間電信第一〇連隊の指揮に入らしむ。
	本部の一部は北京郊外に位置し有線第二、第三四中隊及無線一部は、電信第五連隊より其の担任せる華北軍幹通信網を継承し後方通信連絡に任ず。
六、一五	河南地区の攻略終り其の通信網を電信第一〇連隊に移管し有線第六中隊をして電信第一〇連隊の担任せる山東地区有線通信網を継承せしむ。
六、一五	指揮下部隊は第五五固定無線隊を除く他総てを原所属に復帰せしめ有線第五中隊を掌握下に入れ北京に復帰華北の通信連絡に任じつゝ教育訓練に全力を傾倒す
一二、一五	初年兵、五七〇名を福岡に於て受領教育隊を編成し第一期教育を開始す

0744

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概況	記
昭三、二、初旬	有線第五中隊無線一ヶ小隊を第一二軍に配属す	
〃 三、一〇	電信第三五連隊の編成を命ぜられ之が編成を開始、部隊よりも将校以下約五〇〇名をその要員に充当し幾枝の一部を移管し四月一日編成を完結す。	
〃 五、下旬	第四三軍編成せらるゝや其の管内に駐屯しある第四、第六有線中隊及無線の若干を第四三軍に配属第六中隊長は有線教育隊をその指揮に入れ第四三軍通信隊長となり軍地南部の通信連絡に任ず	
終戦直前	空襲の熾烈化に伴い匪団の蠢動亦活発化し有線の障害続出の状態なりしも全力を傾倒之が維持に勉め無線通信を増強す。資材不足方面に渉り不足せるも創意工夫死枝活用等自給自足態勢を逐次増強し相当の弾撥力を保有す	
終戦後	有線通信網の障害甚大にして国三之が特別作業隊を編成し恢復を計りしも交通の杜絶と共に維持不可能となり有線は局地通信の止むなきに至り無線通信施設の全力を傾倒終戦に伴い複雑多岐なる通信をして遺憾なからしむ。	
昭二〇、二、五	接収業務を開始、三、三月完了。	
二、三〇	第二軍麻中の有線一ヶ中隊（五中）を第一二軍に転属す。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概況	記
昭二〇、二、三	通信網の縮少に伴い任務外となりたる将校以下二〇〇名を復員せしむ以後、逐次分割復員せしめ二一年四月末を以つて部隊全員の復員式を完了す。但中国留用者四〇名 北支方面軍司令部通信班要員九三名を三月二〇日附 北支方面軍に転属す	
三、三	部隊主力帰還状況	
三、五	豊台集結	
四、四	天津集結	
四、二	唐沽出帆	
	仙辺保上陸	
	人員	
	編成人員 二〇二九	現在員 一九五八
	内、転出 六一四	転入 二七一
	入院 四六	
	生死不明 三五	
	死亡 七一	
	残留 六	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信第二九連隊第四中隊部隊略歴

部隊長　陸軍中佐　片山幸一

年月日	概況
昭一九、三、一四	編成完結
	部隊主力より分離後の行動概要
一九、八、一〇	電信第二九連隊第四中隊、昭和一九年より天津にありて天津地区警備通信実施中のところ、現地に於て
一九、四、一〇	第四三軍司令官の指揮下に入り該任務遂行のところ膠済線警備通信担任変更のため
一九、一、一	済南に移駐
一九、一、一三	復員管理を第四三軍司令官に移管せらる、
一九、一、一二	復員のため済南出発
一九、一、一三	青島到着
一九、一、一四	青島港出帆
一九、一、一七	仁川港上陸
	昭、一九、一一、三日以降の人員転出入左の如し、

0747

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概況
人員内訳	
人 昭三〇、一三、二〇日付	表1
又 昭三一、一、一二日〃	表2
又 昭三一、三、一日〃	表3
人員内訳	
尉官 下士官 兵 計	
現地 一 九 一〇	
内地 四 四〇 一五二 一九六	
計 四 四一 一六一 二〇六	
表1、昭二〇、一二、二〇日付転出入者人名表	
被転属部隊 所属 役種 兵種 官等 氏名	
暨信オ六連隊オ四中隊 オ六固定無線隊 予備 陸軍兵長 細江孝貞	
〃 〃 〃 〃 江原猛	
〃 〃 〃 〃 土井亦三郎	
〃 一補 〃 〃 〃 陸軍上等兵 岡丁一	
〃 二補 〃 〃 〃 陸軍一等兵 殿之一志	
オ六固定無線隊 暨信オ六連隊オ四中隊 現 通	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概況
	〃　森重秀夫
	〃　大瀬秋秀
	〃　白柿尚人
	表2　昭三、一、二日附転出者人名録
	被転属部隊　役種　官等　氏名
	才六四固定無線隊　予備　陸軍兵長　田中義一
	〃　二補　〃　陸軍上等兵　副島保
	〃　現　〃　〃一等兵　田岡勝俊
	〃　〃　〃　河野泉
	〃　〃　〃　市来大海
	〃　〃　〃　村田正太郎
	表3　昭三、三、一日附転出者人名録
	被転属部隊　所属　役種　官等　氏名
	北支才一六五兵站病院　通信才六連隊派出中隊　予備　陸軍伍長　吉松正二
	〃　〃　現　〃一等兵　萩原一二

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信第三六連隊（一部）第六中隊略歴

部隊長　陸軍中佐　片山幸市

年月日	概況	記事
昭一九、六、一五	部隊本部と分り後の行動概要	
一九、四、一〇	宋漢作戦に参加後	
	済南に移駐　済南地区の警備通信に従事	
一九、七、三	済南に於て第四三軍司令官の指揮下に入り引き続き該地区の警備通信に従事	
一九、一一、一三	復員管理を第四三軍司令官に移管せられ	
一九、一二、一三	復員の為済南出発	
一九、一二、一四	青島到着	
一九、一二、一七	青島港出帆	
	佐世保港上陸復員す	
	連隊本部との連絡不能となりたる以後の転属転入等左の如し	
	イ、昭一九、一二、一〇日附	附表第一
	ロ、〃　〃　〃	〃　第二

0750

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概況
3、昭三、三、三〇日付	〃
4、〃 〃	〃
5、〃 二、一、十日付	〃
6、〃 三、二日付	〃
残務整理者	〃
人員内訳	
司令・下士官・兵 計	
現地 二 二	
内地 四五三 二四八 二九七	
計 四五三 二四二 二九八	

0751

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信第二九連隊略歴

川人中尉

年月日	概況
昭一九・三・一下旬	佐賀にて編成完結 北支にありて北支那方面軍通信隊となり東京（大本営）、各総軍方面軍、各軍、師団各兵団、補給諸廠間の通信に任ず 連隊は本部一、有線大ケ中隊、無線一ケ中隊、材料廠より成り、本部第一中隊、第二中隊、無線隊の主力及材料廠を北平に位置せしめ、第三中隊を石家荘に、第四、第六中隊、無線一ケ小隊を第四三軍の指揮下に入らしめ、済南に第五中隊を十二軍指揮下に入らしめ開封に位置せしむ。終戦時の北平地区の兵力概ね一三五〇（内軍属二五〇位）石家荘三九〇にして、前記各軍の指揮下にありし第四、第五、第六中隊無線隊の一部は夫々の軍に転属す 十二月一日現在の（帰還せる人員を除く）北平地区兵力は西苑兵舎（北平郊外）（本部・一中隊、二中隊の残部・無線隊の主力）概ね二〇〇。通信所関係は司令部通信所二〇〇、天津通信所三六、

0752

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概況	記
	唐沽倉庫一六　石家莊（通信所を含む）三九〇なり。	
	材料廠関係は中支（重慶）側と要望により廠長以下凡そ一〇〇名、当分残留せしめらる。帰還状況は	
一二下旬	荒川中尉以下　一五九（病院下番にして他部隊より転属せるもの）	
	中國獣医大尉以下　二三、竹本中尉以下　一二名　帰朝人す。	
一三上旬	横田中尉以下　三〇〇（在北平支カ一部）川人中尉以下　一九六	
	（在北平支カの一部）帰還す　合計　六九三	
	在北平支カ以外の地にある中隊の帰還見込不明にして、前記通信所等員は方面軍に転属の予定なり。	
	部隊長、隊付仮官、副官、各隊長は未だ帰還しあらず。	

◎北　平　　◎天　津　帰還状況

現在					
西苑支舎	二〇〇	通信所五〇〇	一二月　一二	（在北平支カ分）	
通信所	二〇〇	石家莊三九〇	〃　一五九		
材料廠	一〇〇	（他軍転属合計）	〃　二三	計六九三	
12月1日					
軍　医	一六〇		三月三〇〇		
計	六六〇		計八九〇	〃　一九九	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信第二九連隊部隊略歴

年月日	概況
昭一九、三、一四	編成完結 部隊の行動
自一九、三、一五 至二〇、九、二	連隊本部は北京に位置し、北京、北川、天津地区の警備通信に任ず 現在 連隊長、連隊副官、各中隊長、各内務係員の他主力は北京にあり
二〇、一、九	未帰曹長以下二二一名は内地帰還のため北京出発
一、二四	唐沽出帆
一、二八	北支保上陸 夫々帰郷せり
一、二九	伊藤伍長は残務整理のため二日市到着
二、三	完了す 戦名不携行 未送付

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

暫信第二九連隊教育隊部隊略歴

年月日	概況
昭二〇、九、一	編成完結 編成場所　北支河北省北京戒厳寺　暫信第二九連隊内 北京第一五二兵站病院よりの退院患者を以って教育隊を編成す 本日より武装解除の準備
二〇、一〇、一三	暫信二九連隊兵舎中国軍に接収され部隊は北京戒厳西苑兵舎に移動す
〃　二〇、二〇	西苑兵舎中国軍に接収され部隊は通州へ移動のため国兵舎出発
〃　二〇、二〇	北京戒厳精算領・附近に於て天幕露営
〃　二〇、二二	命により内地復員の為同地出発、天津貨物廠到着
昭二〇、二、二四	上陸、第一一四大隊にて塘沽出発
〃　二、二六	仮宿泊所上陸　同日附を以って復員す
	帰還人員　一六七名
	入院患者　五名
	戦時名簿は連隊本部に保管しあり

0755

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信第二九連隊部隊略歴

年月日	概況
	連隊長陸軍中尉 片山幸市殿以下五四〇名、北京及近内地区の通信任務遂行中のところ、此度復員の命に依り通信任務に支障を来たさぬよう、木村少尉を長とする必要なき人員一七〇名を復員される事になり
昭一三、三	西苑出発 同日豊台着
一三、三五	豊台発 天津に向う
一三、三六	天津着、以後、米兵の雑役等に従事す
三一、五	天津発 塘沽到着 同日乗船
一、六	塘沽出帆す
一、一〇	佐世保着
一、一二	佐世保に於て復員式終了せり
	将校 二名、 下士官・兵 一六八名 計 一七〇名
	(電信第二九聯隊の一部復員)

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第十七旅団独立有線第百参中隊部隊略歴

年月日	概要
	一、部隊名　独立有線第一〇三中隊
	二、部隊長官氏名　陸軍大尉　田中鐐三
昭一九、二、一五	三、一軍令陸甲第十二号臨時編成(2)下令
	1　昭一九、三、六編成業務に着手、昭一九、三一〇、満洲龍江省朱家坎に於て編成完結
	2　中隊長陸軍中尉沃村嘉一以下將校五名　下士官二五名　兵二四七名
昭一九、三、一三	四、一、移駐のため朱家坎出発
〃　一六	一、山海関編盟
	1　関総作命甲第二六〇号に據り中国派遣軍の戦斗序列に入る
〃　一七	一、北京着
	1　同時に電信第五聯隊長の指揮下に入る
昭一九　四一	一、電信第二十九聯隊長の指揮下に入る
四、二	一、華北方面軍の戦斗序列に入ると同時に同方面軍の隷下に入る
自昭一九、四一 至〃　六三〇	一　京漢作戦参加
	1　死没人員　兵一名

0757

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	2 内地還送人員兵一名
昭一九、六、一五	一 第十二軍の指揮下に入ると同時に電信第十聯隊長の指揮下に入る
昭一九、七、一	一 七、一以降中華民国河南省鄭州に在りて作戦後の警備
	1 鄭州駐屯間に於ける死亡人員兵一名 内地還送兵一名
昭一九、九、一八	一 中華民国河南省開封に移駐
	1 開封駐屯間に於ける死亡人員兵二名 内地還送兵二名
昭一九、一〇、三〇	一 部隊華中転用のため開封出発
	1 輸送間に於ける 死亡者 將校一名 兵五名
	内地還送 兵一名
昭一九、一一、一五	一 中華民国湖北省武昌着 同時に第六方面軍の指揮下に入る
	1 同地駐留間湘桂作戦業務に従事
	2 一二、一〇 井上特設通信隊長の指揮下に入る
	3 武昌駐留間に於ける死亡人員兵一名
	内地還送兵一名
昭一九、一二、一五	一 武昌出発
	1 転進間に於ける死亡人員兵三名内地還送兵二名
昭一九、一二、二五	一 將校一名 電信第九聯隊より転入

0758

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇・一・一七	一、中華民国湖南省祁陽縣浯塘省
	二、中隊長　陸軍中尉　沢村嘉一　湖南省祁陽縣白鶴鋪に於て戦死
昭二〇・一・二一	一、中隊長代理　陸軍中尉　田中鐐三
〃　三・五	一、電信第五聯隊長の指揮下に入る
〃　三・九	一、中隊長　陸軍中尉　田中鐐三
自昭二〇・一・一七 至〃二〇・八・一七	一、湖南省祁陽縣浯塘駐留間に於ける死没人員將校一名　下士官なし　兵八名 戦傷人員　兵二名
昭二〇・八・一八	一、軍令陸甲第一一六号に據り復員下令
	一、八・二六撤退のため浯塘出発　九・一〇　街立混成第十七旅団の指揮下に入る 又　撤退集結行動間に於ける　死没人員　下士官一名　兵三名
昭二〇・一〇・一	一、中華民国湖南省寧湘縣道人磯着
	一、道人磯集結間に於ける死没人員　兵六名　戦傷人員　兵一名
昭二一・四・一八	一、内地帰還のため道人磯出発
	一、道人磯――上海輸送間に於ける死没人員兵三名
昭二一・四・七	一、街立混成第十七旅団長の復員管理下に入る

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二一・五・三	一 上海着 上海口船で判明せる死亡人員 兵一名
昭二一・六・二	一 内地帰還のため上海港出帆
昭二一・六・二	一 佐世保港上陸

五 兵力

区分	将校	准士官	下士官	兵	計
現在員	三	一	大八	一三四	二〇大
入院患者	一		三	二一	二九
合計	四	一	七一	一五三	二三一

0760

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第五十五固定無線隊部隊略歴

年月日	概要
	一　部隊行動の概要
	1　終戦前の行動
	第五十五固定無線隊は昭一九・三・一〇　新京に於て編成、支那派遣のため三・一五、新京出発　三・一六　支那派遣軍総司令官の隷下に入り四・一　電信第二十九聯隊長の指揮に入る同月五日北支那方面軍司令部の隷下に入り北京市に集結を完了し爾後通信訓練及作戦準備を為しつゝ術期中自四月一日至六月三十日の京漢作戦に参加鄭州附近に於て通信連絡に任じ作戦終了後再び北京市に於て北支那方面軍司令部―支那派遣軍総司令部との通信連絡に任じ終戦時に至る
	2　終戦後の行動
	五日西苑に集結を命ぜられ接收準備のため隊長以下六名を北京に残し同日主力は西苑に集結せり次で十一月二十四日復員を命ぜられ隊長以下二十八名（全員）北京を出発同日天津着同月二十七日天津発同日塘沽到着同日米軍LSTに乗船同日塘沽出発十二月二日佐世保に上陸同日部隊召集解隊を実施す

0761

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	二　部隊の召集解除隊の概況 部隊長佐旧中尉以下二八名（將校一　下士官　五　兵二二　）は在世保に於て除隊召集解除 現役　満期　一五 召集　解除　一三

0762

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立重射砲第四十四中隊部隊略歴

北支第一八七四部隊　部隊長　陸軍大尉　鹿島正男

年月日	概要
昭二〇 三 五	昭和二十年三月五日軍令陸甲第一八号に依り編成着手（河北省宛平縣豊台鎮）
昭二〇 三 一五	独立重射砲第四十四中隊編成完結
昭二〇 七 一六	河北省通州双橋に移駐同地附近の警備
昭二〇 八 一三	張家口撤退援護作戦参加のため双橋出発
昭二〇 八 一五	蒙古聯合自治政府張家口特別市着
昭二〇 八 一九	蒙古聯合自治政府察哈爾盟北泉丸一帯地附近の戦斗に参加
昭二〇 八 二一	張家口撤退
昭二〇 八 二八	河北省昌平県沙河鎮着　同地附近の警備
昭二〇 二 二六	豊台着
昭二〇 二 二七	北京に於て武装解除並接収を受く
昭二〇 二 二九	豊台出発
昭二〇 二 三〇	天津着
昭二〇 三 二	部隊復員のため天津出発
同　日	来船地塘拓着　直ちに来船

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇・一二・三	出帆
昭二〇・三・七	長崎県佐世保浦頭上陸
昭二〇・三・八	復員完結
	以下先発者の行動
昭二〇・一二・二五	河北省昌平県南口鎮着同日より同地附近の警備
昭二〇・一二・八	南口鎮に於て武装解除
昭二〇・一二・九	同地出発
昭二〇・一二・一九	豊台着
昭二〇・一二・一三	豊台出発
昭二〇・一二・一四	天津着
昭二〇・一二・一九	天津出発
同　日	来船地塘沽着直ちに乗船
昭二〇・一二・二〇	出航
昭二〇・一二・二四	佐世保浦頭上陸
同　日	復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立軽装甲車隊部隊略歴

年月日	概要
	一、昭和二〇一〇一 附を以て柴田大尉は北支那方面軍司令部勤務を命ぜられ左の如く発令 陸軍 大尉 石川 俊岩 命部隊長代理 二 編成完結の状況 1 編成完結日 昭和二〇年三月十五日 2 編成担任官 独混第九旅団長 3 編成完結の状況 軍令第 号より編成を命ぜられ第大九師団五九師独混九、第一軍、独混一 各旅団 所属の独立軽装甲車中隊の兵器及人員更に之に加えるに戦車第三師団より差出の人員を以て基幹とし、昭和二〇、三、一五天津に於て編成完結 柴田大尉は部隊長代理へ後に部隊長」を命ぜらる
昭二〇、三、一五	編成完結於天津
〃 五一〇	北京東城及先展場に移駐完了

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、五、一〇	爾後同地附近は警備
〃 六 二五	第二中隊を独歩二旅に配属
〃 八 一五	終戦の詔勅下る
〃 一一 二四	武装解除を受く（北京集結）
〃 一二 二四	独旅大尉以下二九八名　内地帰還のため北京出発
〃 一二 三〇	佐世保上陸検疫隊召集解除
〃 一二 六	石川大尉以下四二名、支那側に教育警備のため残留せるも任務交代北京出発
	佐世保上陸
	独歩に旅二配属中なりし星野中尉以下四〇名（第二中隊）佐世保上陸検疫隊
	召集解除
	兵　力　五一四名
	内入院二六名　死亡九名　生死不明　三名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立輕裝甲車隊部隊略歴

年月日	概要
	一、御隊は後前大尉の指揮を以て十一月二十日〇八〇〇朝陽門站出発二十二日天津北支那野戰貨物廠に集結二十三日検疫実施二十四日輸送大隊編成（第十八大隊後藤大尉以下一二九名第十八大隊小林少尉以下二五八名）〇五〇〇出発準備完了〇六〇〇より携行品検査〇九〇〇天津貨物廠站出発一一〇〇塘沽埠頭着直に米国軍上陸用舟艇（LST）に乗船一三三〇出帆十月二九日一五〇〇佐世保に上陸着用被服の消毒後佐世保收容所に入る三十日現役満期除隊並に召集解除を実施各県別先任者の指揮を以て帰郷せしむ帰還中隊本部第一三五段列の主力 二、引率者の官氏名、人員の概要 1 引率者の官氏名　陸軍大尉　後藤義一 2 人員の概要 將校　一四 下士官　四四（准士官を含む） 兵　二二九 計　二八七名

0767

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	三　残留主力の概要 第二中隊は独立混成第一旅団に配属中にして石家莊に集結中なり（人員中隊長星野中尉以下五四名） 第四中隊は武装解除後中隊長以下五〇名、一ケ中隊を編成し中国側四ケ一師長の指揮下にありて警備教育に任しあり この兵力は第四中隊が主力にして若干名各中隊より残兵を配当しあり之は戦車第三師団と交代する予定なりしがその後の状況不明なり 部隊長代理石川大尉副官清水中尉兵器委員松尾少尉は第四中隊と共に残留しあり 部隊長柴田大尉は北支那方面軍司令部第三課に勤務中

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

北支那派遣憲兵隊司令部部隊略歴

部隊長官名　陸軍少将　本多武男

年月日	概要
戦病歿者慰霊祭	司令官　陸軍少将　北野憲造 昭和十五年七月十日北京市元宮城内大廟に於て隷下各隊戦病歿者の合同慰霊祭を執行す
司令官更迭	同年七月二十二日　付左の通り華北駐屯憲兵隊司令部指揮官左記の如く更迭せらる 左　記 華北駐屯憲兵隊司令官　陸軍中将　北野憲造 補第四師団長 鎮海湾要塞司令官　陸軍少将　矢野音三郎
派遣憲兵交代	華北駐屯憲兵隊司令官被仰付 昭和十六年四月二十三日派遣憲兵交代要員 （内地　朝鮮、関東各隊より）着隊す
編成改正	同年六月二十四日華北駐屯憲兵隊の編成を改正し華北派遣憲兵隊司令部と改称左記の如く機関を設置す。 左　記

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
司令官更迭	特設機関（鐵道無線指揮） 同年七月一日附左記の通り華北派遣憲兵隊司令部指揮官更迭せらる 左記 華北派遣憲兵隊司令官　陸軍中尉　矢野治三郎 補第二十六師団長 憲兵司令部本部長　陸軍中將　城倉義衛 華北派遣憲兵隊司令官被仰付
南方派遣憲兵要員転属	同年十二月十八日南方派遣要員として堺谷曹長以下七名北京出発す
華交業務開始	昭和十二年七月七日天津日本租界春日街に於て華交業務開始
庶舎移転	昭和十三年二月二十四日華北駐屯憲兵隊本部の位置を北京市内四区西城に移転す
編成改正	同年八月三十一日華北駐屯憲兵隊編成改正に依り華北駐屯憲兵隊司令部に昇格　左記分課を置く 左記 一、総務部 第一課　庶務 二、警務部

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
編成要員	第二課　第三課
着隊	同年同日華北駐屯憲兵隊司令部編成 要員着隊す（人員不詳）
司令官	同年九月十三日華北駐屯憲兵隊司令
着隊	部指揮官着隊す 司令官　陸軍中將　佐々木到一
廳舍移轉	同年十一月七日華北駐屯憲兵隊司令部の位置を北京市内大正沙灘兒北京大學跡に移轉す
隊長会同	同年十二月十五日より三日間に亘り隷下各隊長を招致し隊長会同を実施す
司令官離任式	昭和十四年九月九日前華北駐屯憲兵隊司令官の離任式を挙行す 司令官　陸軍中將　佐々木到一
司令官	同年九月十三日新華北駐屯憲兵隊司令部
着隊	指揮官着隊す
廳舍移轉	昭和十七年五月十五日華北派遣憲兵隊司令部の位置を北京市内七区東交

0771

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
派遣憲兵交代 司令官更迭	民巻西ロ二十二号に移載す 同年七月二日派遣憲兵交代要員（内地、朝鮮、関東各隊より）着隊す 同年八月一日附左記の通り華北派遣憲兵隊指揮官更迭せらる 左　記 華北派遣憲兵隊司令官　陸軍中佐　城倉義衛 補憲兵司令部附 陸軍憲兵学校長　陸軍少将　三浦三郎
第十五軍憲兵隊編成 要員転属 派遣憲兵 交代 司令官更迭	華北派遣憲兵隊司令官被仰付 同年十月三十日第十五軍憲兵隊編成要員北京出発す（人員不詳） 昭和十八年二月一日派遣憲兵交代要員（内地、朝鮮、関東各隊より）着隊す（人員不詳） 同年八月二十六日華北派遣憲兵隊司令部指揮官左記の如く更迭せらる 左　記 華北派遣憲兵隊司令官陸軍中将　三浦三郎 補関東憲兵隊司令官 憲兵司令官　陸軍中佐　加藤泊治郎 華北派遣憲兵隊司令官被仰付

0772

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
華北特別警備隊要員編成改正	同年九月二十日華北特別警備隊編成要員として戦死すへ人員不詳） 同年九月二十日華北派遣憲兵隊司令部の編成を改正し左記の如く分課に改む 左記 一、庶務課 二、警務課
補助憲兵集合教育	昭和十九年五月十五日天津旧米国兵営内に臨時教育隊を設置し補助憲兵の集合教育を実施し同年六月十八日教育終了す
準憲憲兵	同年七月四日北京市内四区武衣庫に臨時準憲兵教育隊を開設し親下各隊より教育要員を集合せしめ教育を開始同年十二月二十八日教育終了す
編成改正	昭和二十年三月十五日華北派遣憲兵隊司令部の編成を改正す
停戦詔勅発布	同年八月十四日停戦に関する詔勅発布せらる
復員下令	同年八月二十五日復員下令発布せらる
停戦協定	同年九月二日停戦協定締結す

終戦より帰還迄の概要

一、大詔渙発

八月十五日十二時　大詔渙発せる

0773

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	二　北京特別市の防衛強化 八月十八日方軍作命甲第三三八号に依り北支那派遣憲兵隊司令官は北京特別市の防衛に関し戦車第三師団長の指揮下に入り武装区工作員不逞分子等の北京城内潜入防止並に防略防衛に任し北京城及其の周辺地区に於ける治安の確保に任せり 之が為教習隊を北京憲兵隊長の指揮下に入らしむ
	三　天津憲兵隊に人員増加 八月十八日天津市周辺に於ける治安悪化に鑑み北支那派遣憲兵隊司令部に於ては教習隊より將校以下一一四名を警務応援として天津憲兵隊長の指揮下に入らしむ　派遣す
	四　司令部廳舎を大平倉分室へ移転 八月二十日軍司令部より米国兵営引渡の命を受け爾後之か移転準備に繁忙を極む 八月二十四日元司令部指政室として使用しありたる大平倉分室に移転を完了す
	五　聯合軍空艦部隊麾下地区附近の警戒実施 八月二十六日以降数次に亘り聯合軍空艦部隊の北京其他要地進出に当りえ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	北京附近の治安確保並に不慮の事故の警防に万全を期する為南苑に將校を長とする分遣隊を配置す
六	張家口憲兵隊の張家口撤收 八月二十六日蘇聯軍の内蒙進出に伴ひ蘇聯軍の張家口よりの転進に依り張家口憲兵隊も之と行動を共にし主力は南口に後退八月三十日更に北京清華園に後退す
七	特警所属者の原隊復帰 九月十七日特別警備隊の任務変更に依る兵員整理に際し北京清南・天津・青島及石門各憲兵隊長の指揮下に入りしめありたる特別警備隊將校以下を情勢の変化に伴ひ原隊に復帰せしむ
八	司令官交代 前司令官重藤憲文閣下は文官総督の長の着任不能となりたるを以て北支那派遣憲兵隊指揮官として九月十八日本多武男少將閣下着任せらる
九	天津憲兵隊警務応援者の原所属復帰 九月二十九日天津憲兵隊に警務応援の為派遣中の教習隊將校以下一一四名を原所属に復帰せしむ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
十	米国兵営の返還 十月七日米国第一海兵師団第五聯隊北京到着に依り終戦前憲兵隊司令部として使用しありたる米国兵営を正式に返還す
二	特設西城分隊の編成解除 十月十二日情況の変化に伴ひ憲兵隊司令部特設西城憲兵分隊の編成を解き司令部に復帰せしむ
二二	廳舎移転 八月二十四日米国兵営より移転し司令部廳舎として使用中なりし大平倉分室は軍政部平津地区特派員辦公處に於て使用することなりえか立退きを要求せられ移転後約二ヶ月足らずして再び廳舎を移転のやむなきに到り軍司と交渉の結果司令部は司令官以下將校大、下士官七及軍属若干の最少限度の人員を元方軍司令部第二將校宿舎に移転し主力は佐隊大佐以下十月十八日より十月二十二日迄の五日間に元西郊に在る北支那派遣憲兵隊教習隊に移転を完了す
二三	在平憲兵部隊主力の西郊集結 十月二十二日北平憲兵隊の主力及十一月二十八日張家口憲兵隊の各隊は各々西郊憲兵隊教習隊内に集結す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
一四	城内独立分隊の編成 北支那派遣憲兵隊司令部に於ては部隊及在留邦人の北平郊外集結後に於ける城内残留部隊に対する軍事警察及残留邦人の保護に任せしむるため將校以下三十名を以て城内独立分隊を編成す
一五	日僑の西郊集結に伴ふ警戒実施 十月二十三日より実施せられたる一部日僑の西郊集結時に於ける警戒の為伸張兵団より配属の約二個中隊と福島部隊より配属の小型乗用車三及領事館警察署長以下所要人員を指揮すると共に中国側軍憲警と密接なる連絡を保持し城内に於ける安寧保持特に不穏行動の未然防止に任す
一六	隷下憲兵部隊の里配属 十月二十五日方軍依命に依り北平、天津、冀東、張家口、石門各憲兵隊を駐蒙軍司令官の指揮下に入らしめらる
一七	在平憲兵隊の接収完了 北支那派遣憲兵隊司令官は在平憲兵部隊の被接収責任者として各関係隊長に対し接収に関する司令官注意を二回に亘り即刻交付す 十一月十四日より四日間に亘り司令部、北京隊、張家口隊教習隊は夫々中国側百四十二師より派遣の接収員に依り接収を無事完了す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
一八	女子軍屬の内地帰還 十一月十九日在平憲兵隊（司令部、北平、張家口、教習隊）女子軍屬五四名は内地帰還の為北平を出発天津に集結す
一九	戦犯容疑者の指令 十一月二十四日第一次戦犯容疑者として將校以下二十七名は中国第九十二軍に出頭方指令ありたるを嚆矢として爾後逐次人員追加せられ三月一日現在に於ける之が総人員一二九名に達せり
二〇	男子独身軍屬内地帰還 十二月一日在平憲兵部隊男子独身軍屬五二名内地帰還のため北平を出発天津に集結す
二一	西郊集結 一月七日城内独立分隊を廃止し全員之教習隊集結中の近衛隊に合流集結す
二二	所屬復帰 一月八日北平及張家口憲兵隊は北支那派遣憲兵隊司令官の所屬に復帰せしめらる
二三	西苑集結 一月十八日第九十二軍より在西郊集結中の憲兵部隊に対し速に西苑日本街

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	手宮兵集中営に集結を命せられ一月十八日集結を完了す
二四	軍医帰還
	西郊集結中の軍医へ北京・張家口　教習隊しは二月七日内地帰還のため北京出発天津に集結す
二五	軍医の豊台集結及帰還
	西郊集結中の憲兵隊司令部軍医二一八名へ家族共しは四月十九日豊台日本徒手営兵集中営に集結を命せられ同日集結を完了す
	豊台集結中の軍医は内地帰還の為四月二十七日豊台
二六	憲兵の天津集結
	西苑集結中の憲兵隊司令部・北京隊・張家口隊　教習隊　石門隊の各隊八百二十八名は四月二十八日天津貨物廠内に集結を命ぜられ同日午時三十分清華園出発四月二十九日早朝天津貨物廠に集結を完了す
二七	憲兵の内地帰還
	五月六日内地復員帰還の為天津貨物廠出発五月六日塘沽港出帆五月十三日佐世保港上陸　月　日　復員完了す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

北支那派遣憲兵隊司令部部隊略歴

部隊長官　陸軍少將　本多武男

年月日	概要
部隊の主力と分離後の行動	昭和二十一年四月二十八日殘務整理の爲主力と分離北平に駐留中のところ五月二十五日解放せられ輸送指揮官八十大尉の指揮を受け五月二十九日LST〇〇四九船にて唐沽港出港六月六日佐世保港上陸復員す 昭和二十一年六月六日 陸軍少將　本多武男 以下一八名
	申送り 昭和二十一年五月十七日　関係書類の整理を完了し佐世保出張所人員班に依託す

0780

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

北支那派遣憲兵隊司令部部隊略歴

部隊長　陸軍少將　本多　武男

年月日	概要
部隊行動の概要	昭和二十一年五月五日天津に於て陸軍軍醫大尉　平山　寛　陸軍衛生准尉上田員一の兩名はLST一來組指揮班　第一大八班要員救護班長及救護班員を命せられ部隊主力と分離五月九日天津出發同日塘沽に於てLSTQ〇七大二來船五月十六日佐世保に上陸す 復員時に於ける事故者無し 昭和二十一年五月十六日 陸軍軍醫大尉　平山　寛

0781

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

北支那派遣憲兵隊司令部の一部

年月日	概要
部隊行動概況	天津貨物廠に集結を終りたる華北憲兵隊の主力は五月六日天津を出発帰国の途につきたるも当時戦犯容疑の故を以て残留を命ぜられたる拘留以下七十六名並大佐二名　伝令一名　計七十九名は五月十二日米側容疑解除並大佐以上の帰国許可に伴ひ五月十四日天津出発、塘沽乗船、たちば丸五月二十日博多入港　上陸 右上陸部隊は直に帰郷したるも藤本大佐　石井准尉の両名は直に当二日市復員本部に出頭　五月二十一日申告以后事務整理を命せられ五月二十五日之を完結帰郷許可となり五月二十六日夫々帰郷の途に就たり

0782

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

北支那派遣憲兵隊天津憲兵隊部隊略歴

部隊長　陸軍憲兵大尉　室岐藏

年月日	概要
	一　編成完結の状況 昭和二十年二月一日軍令陸甲第十八号により北支那派遣憲兵隊編成改正三月十五日編成完結 二　行動の概要及其の日時 1. 昭和二十年五月一日より主任務たる軍事警察の他一部都市保安勤務を被命仝日北支那特別警備隊より憲兵准尉上岩昌次以下十名転入す 2. 保安勤務強化の為六月十五日より前項派遣班兵力を強化すると共に更に仝日より天津八里台、西　第六区派遣班の三ヶ班を増設す 3. 八月十七　十八両日に亘り天津旧日本租界に於て終戦に伴ひ中国人の一部掠奪暴行事件発生し憲兵は日本軍民中国警察と協力之が鎮圧に努め市内の治安維持に任ず 4. 八月十九日天津西站附近に八路軍約七〇〇名侵入し厦を占拠すると共に市内を混乱せんとする情報に接し憲兵は准士官以下約一〇〇名出動後続日軍と協力的に時間に亘り之と応戦西北方に退避す 5. 十月五日米軍の天津市進駐に伴ひ市内各派遣班全部本部に集結す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	6 十月七日天津市内旧日本租界海光寺兵営内に集結す
	7 十一月十八日各県分遣隊長上居准尉以下三十一名海光寺兵営に集結直接隊長の指揮下に入る
	8 昭和二十一年一月十日唐沽分遣隊長室大尉以下二十五名海光寺兵営に集結す
	9 三月一日隊長笠原三郎は戦犯容疑者として中国側に出頭を被命抑留さるたる為今日室大尉隊長代理を被命今日全員北支那天津貨物廠に集結移動被命
	10 五月六日内地帰還の為今廠出発今日唐沽港出帆五月十三日佐世保港上陸

0784

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

北支那派遣憲兵隊冀東憲兵隊部隊略歴

年月日	概要
	一、編成完結月日　昭和十九月七日五日
	二、設置
	北支河北省冀東道滦県唐山特別市
	三、隊名及隊長
	特設冀東憲兵隊
	平野　陸軍憲兵少佐
	四、編成
	総人員　約三五〇（憲兵約一五〇　補助憲兵約二〇〇）
	特設冀東憲兵隊本部　唐山
	特設唐山憲兵分隊　唐山
	特設第一憲兵分隊　滦県
	特設第二憲兵分隊　秦皇島
	特設古治憲兵分遣隊　古冶
	〃昌黎　〃　〃　昌黎
	特設山海関憲兵分遣隊　山海関

0785

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	五　編成の経緯及任務並に行動の概要 冀東地区に於ける延安情勢の悪化に伴ひ北京に在りし特別警備隊司令部は其の主力を率冀東地区に進駐せるが、京山線鉄道防衛及管内軍事警察を主任務として当隊は編成せられ、特別警備隊、司令官陸軍中佐　加藤泊治郎の指揮に入り共に冀東地区に進駐し　前項に示す編成配置をとり、各分遣し隊は管内京山線各駅に夫々、分派遣班を配置し任に就せり。 増員及隊長の移動 ○　昭和十九年八月（日不詳） 前隊長の転出に伴ひ　亀井憲兵中佐着任 ○　昭和二十年一月（日不詳） (二)　山海関憲兵分遣隊のソ連軍による被抑留 昭和二十年八月三十一日分遣隊長陸軍憲兵中尉以下一九名抑留、同隊内に監禁せられたる後九月五日 関東軍　山海関憲兵隊に軟禁、更に同月十一日　満州国経由に移送せられたるが内二名は九月五日脱出翌六日奉皇島分遣隊長の指揮に入る ○　前項抑留に際し脱出せる他の一四名は八月三十一日奉皇島分遣隊長の指揮に入る

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	(三) 部隊の集結 ○ 九月七日北戴河米進駐は秦皇島分遣隊に昌黎米進駐は来泉米進駐に集結し天々名分(米)遣隊(班)長の指揮下に入る ○ 九月十四日、秦皇島、憲兵分遣隊(成田准尉以下四五名)は唐山に集結し冀東憲兵隊長の掌握下に入る (四) 現地除隊、解傭 ○ 昭和二十年七月―九月の間憲兵補助憲兵計二四名軍属二三名を夫々除隊、解傭す (五) 部隊主力の武装解除及天津貨物廠集結 ○ 九月十七日より同月二十日亘る間在唐山冀東憲兵隊は米軍の武装解除を受け(隊長以下一〇五名) 特別警備隊司令部構内に集結す ○ 十月二十日唐山出発、天津貨物廠内に集結(隊長以下一〇〇名) (六) 部隊主力の内地復員 ○ 十二月十五日塘沽港出発 ○ 十二月二十日佐世保港上陸、同日残留整理者二を除中九八名は除隊す

0787

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	京山線防衛強化の為補助憲兵 前一五ヲ増加セラル
	○ 昭和二十年二月二十二日
	前隊長の転出に伴ひ陸軍憲兵少佐 槙木秋生 着任
編成完結月日	編制改正
	○ 昭和二十年二月一日軍令陸甲第一八号により北支那派遣憲兵隊編制改正
	○ 同年三月十五日編成完結
隊名及隊長	冀東憲兵隊
	陸軍憲兵隊少佐 槙木 秋生
編成、配置	冀東憲兵隊 唐山
	特設右沿憲兵分遣隊 右沿
	〃 秦皇島憲兵分遣隊 秦皇島
	〃 山海関憲兵分遣隊 山海関
	〃 深泉派遣班 深泉
	特設第一派遣班 昌黎
	〃 第二 〃 北戴河
任務	前任務続行

0788

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	名稱の変更及減員 ○ 昭和二十年五月(日不詳)憲兵約十五名 補助憲兵約二七〇を他憲兵隊に配屬替へす ○ 昭和二十年五月(日不詳)左の通り隊名を変更す 特設古治憲兵分遣隊を特設古治憲兵派遣班に 終戰前後の概況 (一) 任務の変更及配屬解除 ○ 昭和二十年四月八日特別警備隊司令官の指揮を脱し奥那派遣憲兵隊司令官の指揮に復帰 ○ 右に伴ひ京畿線防衛の任を解かれ管内軍事警察を担当

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp